



「5月27日」種子島家畜市場で育成牛払下げを行いました。  
和牛繁殖生産者へ優良な繁殖雌牛を積極的に導入する事を目的に年4回実施しており、管内の畜産農家や畜産関係者が数多く参加し14頭の取引がありました。  
新型コロナウイルスの影響で、インバウンド需要や外食産業での和牛消費が冷え込み、子牛価格も下落傾向が続いていましたが、今回の育成牛払下げにおいては、下げ幅が縮小し、下げ止まり傾向が見られました。  
1頭あたりの平均価格は、107万2千円（前回比2万8千円安）で、最高価格127万4千円（前回比6万円安）となりました。

商品性向上に向けて  
育成牛払下げ



子牛・母牛の暑熱対策について

今年も暑い夏がやってきます。牛は暑さに弱いので暑熱対策をしっかりと行い、秋以降の生産性向上に向けて、下記の点に気をつけて暑い夏を乗り切りましょう。



畜産部  
畜産指導課長  
園田 伸二

最適温度を超えると・・・

牛の最適温度は15～20℃だと言われています。夏の暑熱は生産性を低下させる大きな要因のひとつです。気温が上昇すると発情発現やその周期に影響、受胎率の低下、食欲の低下を招き子牛の発育にも悪影響が生じます。

牛の体温放出は、気温だけでなく湿度も関係しているため、湿度の高い時期は特に注意が必要です。

暑熱対策 ※施設と飼養管理の対策を

- 1) 送風機（換気扇・扇風機）を使用し、体感温度低下に努めましょう。  
（次の日に体温を持ち越さないために、夜も送風機を回しましょう。）
- 2) 畜舎の換気・通風に注意しましょう。（窓・戸の開放、畜舎の整理整頓）
- 3) 良質な飼料、主要なミネラルを与えましょう。
- 4) 新鮮な水を常に十分飲水できるようにしましょう。  
（牛舎の隅々まで水の出の点検をしましょう。）
- 5) パドックや畜舎の日除けを設けましょう。
- 6) 密飼いを避けましょう。
- 7) 熱中症に注意し、家畜の行動をよく観察し、異常畜の早期発見・早期治療に努めましょう。

